

(百年の礎を築く) - [戦略14] 熊本アカデミズム~「知」の集積を「地」の活力につなげます~

(1)現状と課題		(2)概要				(3)施策体系				(4)県民アンケート結果													
<p>本県は、多くの大学が立地し、生命科学や半導体分野の企業や技術の集積もあります。このような特色を生かし、産学官連携により優秀な人材や技術を集積し、研究開発を活性化させる取組みが必要です。また、グローバル化が進展する中、将来の活力を生み出す若者が海外で学ぶチャレンジへの支援などが求められています。さらに、熊本が留学生から選ばれるようなまちづくりを積極的に進める必要があります。</p>		<p>熊本には多くの大学が立地し、生命科学や半導体などの分野での企業や技術の集積もあります。このような特色を生かし、大学や企業の研究開発を活発化させる取組みを進めます。 また、県内の大学などに海外から多くの留学生が集まる、世界に開かれた活気あるまちづくりを進めます。 さらに、夢を持ち海外へ挑戦する若者を支援し、グローバルな人材を育成するなど、「知」の集積を図り、それが「地」の活力となって世界とつながり発展する熊本づくりを進めます。</p>				<p>①世界からの「知」の集積</p> <p>施策69</p> <p>◆「知」を集める ~世界的な知の集積~ 【担当部局:企画振興部・商工観光労働部】</p> <table border="1"> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>2</td> <td>22,051千円</td> <td>H26</td> <td>2</td> <td>26,848千円</td> </tr> </table>				H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H25	2	22,051千円	H26	2	26,848千円	<p>【満足度】</p> <p>H26 4.8 (10.2) 68.4 (13.6) 3.0</p> <p>H25 3.2 (10.9) 66.3 (15.7) 3.9</p> <p>【今後の方向性】 2.1 (%) 48.9 49.0 (2位)</p>	
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																		
H25	2	22,051千円	H26	2	26,848千円																		
★戦略指標[単位]		策定時	H24	H25	H26	目標値		<p>②グローバルな人材の育成</p> <p>施策70</p> <p>◆研究開発部門と大学院を誘致する ~産学官連携による最先端技術の集積~ 【担当部局:総務部・企画振興部・環境生活部・商工観光労働部】</p> <table border="1"> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>3</td> <td>63,987千円</td> <td>H26</td> <td>4</td> <td>84,123千円</td> </tr> </table>				H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H25	3	63,987千円	H26	4	84,123千円
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																		
H25	3	63,987千円	H26	4	84,123千円																		
i	研究開発部門の企業立地件数 【件】	9 (H20~H23) 分析: 企業の研究開発部門の誘致を重点的に行った結果、前年度と同じく各年度の目標を大きく上回った。	6 <60.0%>	12 <120.0%>		10 【件/4年(累計)】	<p>【満足度】</p> <p>H26 4.2 (10.7) 69.1 (13.2) 2.8</p> <p>H25 3.6 (11.1) 63.2 (17.8) 4.3</p> <p>【今後の方向性】 3.1 (%) 50.3 46.6 (3位)</p>																
ii	海外高校への留学生数 【人】	10 (H23) 分析: 単年度の実績では15人となり、前年度からの伸び悩みの一因として、留学に関する情報提供が不十分であったと考えられる。	19 <19.0%>	34 <34.0%>		100 【人/4年(累計)】	<p>【満足度】</p> <p>H26 3.4 (10.8) 68.2 (14.6) 3.0</p> <p>H25 3.3 (9.9) 66.6 (16.0) 4.2</p> <p>【今後の方向性】 5.5 (%) 48.0 46.5 (4位)</p>																
iii	英語の学習が「好き」と回答した生徒 (中1~中3)の割合 【%】	46.9 (H23) 分析: 中学生向け英語教材「I CAN DO IT!」の活用推進や「くまモン英語チャレンジ」の実施等が、実績値の向上につながったと考えられる。	48.4 <+1.5>	50.1 <+3.2>		毎年度、前年度の割合を上回る 【%(単年)】	<p>【満足度】</p> <p>H26 4.3 (12.7) 60.2 (17.3) 5.5</p> <p>H25 3.6 (11.2) 57.0 (22.0) 6.2</p> <p>【今後の方向性】 3.0 (%) 31.3 65.7 (1位)</p>																
	英語の学習が「分かる」と回答した生徒 (中1~中3)の割合 【%】	46.4 (H23) 分析: <<同上>>	47.5 <+1.1>	49.4 <+3.0>		毎年度、前年度の割合を上回る 【%(単年)】																	
iv	留学生の数<再掲> 【人】	575 (H23) 分析: 各大学の留学生獲得に向けた積極的な取組みが増加の主な要因であるが、留学生の就職説明会やワンストップ相談窓口の整備等の環境づくりが留学生を呼び込む気運づくりにもつながっていると推察される。	655 <65.5%>	684 <68.4%>		1,000人以上 【人/年(単年)】																	

No.	(5)平成25年度の主な成果	(6)平成26年度の推進方針・推進状況	(7)問題点(隘路)・課題	(8)今後の具体的な方向性
施策69	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業技術センターものづくり室に3名の研究者を採用し、製造技術開発や新規材料開発など有機薄膜関連の研究開発を加速化</li> <li>「くまもと未来会議」委員に、北岡伸一国際大学学長をはじめ新たに5名を招へいし、留学生への奨学金制度の創設等に展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>引き続き産業技術センターに3名の研究者を採用し、有機エレクトロニクス分野における革新的技術の創出に注力</u></li> <li>知の結集のシンボルとなる委員による「くまもと未来会議」を引き続き開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界的な開発競争に対応するため、国プロジェクト等の研究開発資金の確保及び研究人材の確保が必要</li> <li>新たなテーマの選定やそれに応じた委員の選任を進め、熊本の飛躍に更につなげることが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発現場の迅速化により、実用化へ向けた共同研究等への参画企業を増加</li> <li>様々な知の結集のシンボルを招へいし、大所高所から意見を求め、新たな施策に活用</li> </ul>
施策70	<ul style="list-style-type: none"> <li>知事トップセミナーや企業誘致可能性調査等による企業誘致活動の結果、6件の研究開発部門の誘致を達成</li> <li>県立大学と国立水俣病総合研究センターとの連携大学院協定の締結により、環境問題、地域政策に関する研究教育環境が水俣市で充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ターゲットを絞った効率的な新規企業誘致と既立地企業のフォローアップによる拠点性強化のための誘致活動を継続</li> <li><u>水俣市における拠点施設づくりに向けた取組を、環境省、県立大学等と連携して支援</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内市場が縮小する中、海外進出や国内拠点の再編・集約が加速しているため、企業誘致にとっては厳しい状況</li> <li>連携大学院協定を通じた着実な連携を図ることが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の新規投資先として「選ばれる熊本」をめざし戦略的かつ積極的な企業誘致を展開</li> <li>連携大学院をステップとした、水俣市における知の集積と地域の活性化の推進</li> </ul>
施策71	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学コンソーシアム熊本等との共催で留学生向け就職合同説明会を開催し、県内企業等16社と留学生115名が参加</li> <li>大学コンソーシアム熊本と熊本市と連携し、熊本市国際交流会館に留学生支援ネットワークの拠点を開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の大学で学んでいる留学生を対象に、海外(特にアジア)に進出する県内中小企業の就職合同説明会を実施</li> <li>留学生支援ネットワークを核に、熊本の魅力を国内外に発信する留学生の育成と本県の国際化を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生の採用に取組む企業は多くなく、業種も限られるため、企業及び留学生双方のニーズ的確な把握が課題</li> <li>大学コンソーシアム熊本における適切な意見集約が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生と県内企業双方が理解を深め、就職を考える際の情報提供の場としての定着</li> <li>留学生支援を通じ、留学生の満足度を高めることによる留学生数の増加</li> </ul>
施策72	<ul style="list-style-type: none"> <li>官民出資による世界チャレンジ支援基金に、39,712千円(うち寄附金19,710千円(35件))を積み増し</li> <li>世界チャレンジ支援基金を活用した若手芸術家海外チャレンジ事業により、7名の若手芸術家が海外研修やコンクールに参加</li> <li>世界チャレンジ支援基金を活用した州立モンタナ大学高校生派遣事業により、15名の高校生と3名の教諭を派遣</li> <li>県立高校の英語授業(発話)の半分以上を英語で行っている教員の割合が40.5%となり、H24年度の11.3%から上昇</li> <li>文部科学省の新規事業であるスーパーグローバルハイスクールとして、県立高校1校が指定</li> <li>H25年度県学力調査の結果、英語が「好き」と回答した中学生が50.1%、「分かる」と回答した中学生が49.4%に何れも上昇</li> <li>本県独自の英語音声CD「I CAN DO IT!」を活用した試験「くまモン英語チャレンジ」を実施し、中学生30,660人が参加</li> <li>道徳教育用郷土資料「熊本の心」の英語版“The Spirit of KUMAMOTO”を作成し、熊本市を除く県内公立中学校に全生徒分を配付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>幅広く周知を図り、県民一体となって熊本の未来を担う人材を育成</u></li> <li><u>若手芸術家の海外挑戦への支援を継続し、グローバルに活躍し将来の熊本の芸術文化を担う人材を育成</u></li> <li><u>県内高校生の英語運用能力向上をめざし集中的な研修を受講させるため、州立モンタナ大学への派遣を継続</u></li> <li><u>英語によるコミュニケーション活動を中心とした指導方法を高校の英語教員に普及</u></li> <li><u>指定を受けた学校のグローバル人材育成に向けたカリキュラム開発に対する指導及び各取組に対する助言</u></li> <li><u>本県が独自に開発した英語教材の活用を推進し、英語に対する学習意欲やコミュニケーション能力を育成</u></li> <li><u>小学校英語の県独自のモデルカリキュラム及び英語音声CD小学校版“I CAN DO IT! Junior”を開発し、小学校英語教育を推進</u></li> <li><u>英語の授業のみならず、補充学習や家庭学習等での積極的な活用を通して英語力の向上を推進</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな分野に対する基金の活用事業の検討が必要</li> <li>より多くの若者の海外チャレンジ意欲を喚起していくことが必要</li> <li>15名定員を大きく超える応募者があり、高校生の海外への関心の高まりを感じる一方、長期留学や海外進学者数の増加へつなげる手立てが必要</li> <li>生徒のコミュニケーション能力向上のため、授業形態を大きく転換させる必要性について教員の認識が必要</li> <li>指定校の取組に対する適切な指導・助言及び実践成果の他校への効果的な普及</li> <li>既存の英語教材のより効果的な活用方法について、英語教師の間で十分な情報の共有が必要</li> <li>小学校教員の英語指導力の向上が必要</li> <li>英語の年間指導計画への位置付けや授業等における指導時間の確保が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄附の協力を得るための幅広い広報活動と並行し、新たな分野での基金充当事業を検討</li> <li>これまでの成果や募集内容を広く知ってもらうための広報活動を展開</li> <li>本事業の成果を県のHPや報告書等を通じて普及を図るなど、海外留学や進学のイメージを具体的に伝える手立ての工夫</li> <li>英語指導の中核を担う教員による研究授業により言語活動主体の授業形態を普及</li> <li>運営指導委員会の開催や、次年度から指定校の研究成果を普及させるための協議会の準備等、教育委員会としての支援体制の整備</li> <li>効果的な活用方法について、英語教師を対象とした研修会を実施</li> <li>小中学校の教員を英語教育推進リーダー中央研修へ派遣し、研修成果の普及により県全体の英語教育を推進</li> <li>英語担当者指導法研修会や学校訪問等で、効果的な指導事例の収集や普及啓発を推進</li> </ul>